

JR貨物・ダイワコーポ 東京夕駅に新施設 陸海空ハブへ好立地

日本貨物鉄道(＝JR) びぎ・保管・流通加工・貨物、本社・東京、田村修二社長)は八日、「エフ・プラザ東京C2棟」をしゅん工した。ダイワコーポレーション(本社・東京、曾根和光社長)が借の受ける。

エフ・プラザはJR貨物の駅構内にある、荷さ

びぎ・保管・流通加工・積み替えなど総合的な物流機能を持つ大規模複合施設。C2棟は十三施設目。住所は東京貨物ターミナル(＝東夕)駅敷地内の東京都品川区八潮三ノ二フ三四。六階建て、延べ床面積一万八千五百六十九平方メートル。耐加重垂

駅は東京港大井ふ頭、羽田空港、首都高速道路に近接し、陸・海・空から鉄道への結節点として、将来さらに物流拠点としての価値が上がる場所。

勢いのある企業のダイワコーポレーションが入居しうらしい。物流の活性化に期待したい」とあいさつした。

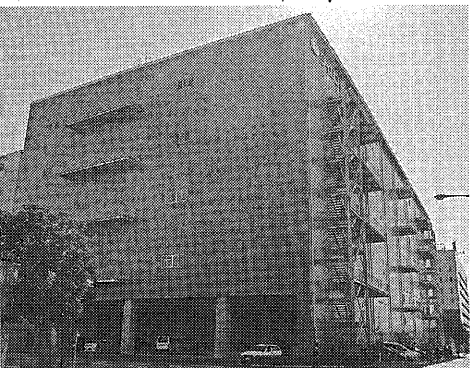
高付加価値物流拠点に活用

ダイワコーポレーションは同施設を「品川営業所」として運用。「優れた立地を生かし、精密部品など緊急性や高いセキ

ユリティーの求められる商品を扱う拠点として活用していく。調達・納品物流のスピードアップを図り顧客に貢献できる」と曾根ダイワコーポレーション社長。輸出入貨物の荷受けから流通加工、配送までのワンストップでのサービス提供に対応する。

現時点では保管面積の約半分が埋まっており、「残る空床分への引き合いも多い(曾根社長)」。将来的には二十四時間三百六十五日稼働、百五十〜二百人のスタッフが常

時作業するセンターとしての運用も想定している。同社では現在には鉄道貨物輸送の利用はわずかだが、今後JR貨物との連携強化を進めていく方針。(村山 みのり)



エフ・プラザ東京C2棟。延べ床面積一万8056.00㎡

直搬送機(積載量一ト)三基を備える。両面バースで、ドックレベラーは十三基。しゅん工式で、JR貨物の早瀬藤二常務事業開発本部長は「東夕